

川口駅周辺まちづくり指針(素案)

目次

1	まちづくり指針の目的と位置づけ	1
1-1	策定の背景・目的	2
1-2	指針の位置付け	3
1-3	川口駅周辺まちづくりビジョンの概要	4
1-4	対象範囲	5
2	川口駅周辺の現状・課題と将来の変化	6
2-1	川口駅周辺のまちづくりの動向	7
2-2	川口駅周辺の現状と課題	10
3	基本的な考え方	13
3-1	現状・課題と将来の変化を踏まえたまちづくりのポイント	14
3-2	まちづくりを進める上での市の理念	15
3-3	川口駅周辺で進めていくまちづくりの全体像	16
3-4	本指針の全体像	17
4	エリアごとの主な取組等	18
4-1	エリアごとの主な取組等の全体像	19
4-2	エリアごとの具体的な取組内容	20
4-3	取組を進める上で考慮すべき視点	29
5	今後の進め方	30
5-1	今後の進め方	31
6	用語集	32
6-1	用語集	33

CHAPTER 1

まちづくり指針の目的と位置づけ

1 まちづくり指針の目的と位置づけ

1-1 策定の背景・目的

本市では、川口駅周辺の整備について、市民生活の核としてあるべき土地利用の姿、市街地の利便性・安全性の向上のために必要な都市施設の配置、都市活性化の手段等の指針として、昭和58年（1983年）7月に、「川口駅周辺市街地整備構想」を策定しました。

この構想に基づき、東口における再開発による大型商業施設の整備や、西口における大規模な公共空間や文化施設の整備、東西連絡避難路としての歩行者デッキの整備等、さまざまな事業が行われ、現在の本市の表玄関である中心市街地としての礎が築かれました。

一方で、構想の策定から約40年が経過し、社会情勢が変化している中、川口駅を含む川口駅周辺には利便性・安全性等の様々な解決すべき課題が生じており、「さらなる選ばれるまち」として発展するため、現状のまちのポテンシャルの活用、社会情勢及び現状の課題への対応の観点から、「川口駅周辺まちづくりビジョン（以下、「ビジョン」と言う。）」を令和4年3月に策定しました。

さらに、将来的な川口駅の鉄道輸送力の増強による川口市民のさらなる利便性の向上や駅周辺の賑わいの創出等を目指し、令和7年4月24日には、川口駅への上野東京ラインの停車に向けて、本市とJR東日本が相互に協力して事業に取り組むことを目的とした基本協定を締結しました。

これらの状況から、学識者や交通事業者等を含む「川口駅周辺在り方検討委員会」を設置し、のべ4回の当委員会での議論を踏まえ、将来の川口駅周辺の公共施設等の在り方を示すとともに、今後駅周辺のまちづくりを進める上で公民共有のガイドラインとして、「川口駅周辺まちづくり指針（素案）」（以下、「本指針」と言う。）を策定しました。

1 まちづくり指針の目的と位置づけ

1-2 指針の位置付け

「ビジョン」の実現に向けて、川口駅・駅まち空間で優先的に取り組むべきプロジェクトの具体的な方向性を示し、公民が連携して個別の整備計画を策定する際の共通の指針として位置付けます。



1 まちづくり指針の目的と位置づけ

1-3 川口駅周辺まちづくりビジョンの概要

「ビジョン」は、国の都市再生緊急整備地域や市の都市計画基本方針等の上位計画における川口駅周辺の整備方針を示すとともに、市民・民間事業者・行政等が連携して各種都市計画やまちづくり事業を実践する際の指針として策定しました。

具体的には、以下の6つの視点をもとに、5つの優先的に取り組むプロジェクトとして示しています。

■まちづくりの方向性

「住みやすいまち」を超えて、
働き、憩い、文化・芸術に親しめるまちとして発展することで、
「住み続けたいまち」「さらなる選ばれるまち」へ

1. 回遊性

駅や各拠点が有機的に繋がったウォーカブルなまちの実現

2. 都市機能

賑わいの再生と新たな時代に対応した都市機能の導入

3. オープンスペース

質が高くニューノーマルに対応した新たな価値を創造する
オープンスペースの創出

4. 交通

安全で快適な移動を支える新たな交通環境の実現

5. 都市景観・環境

本市の表玄関にふさわしい魅力ある景観形成と持続可能
で環境に配慮したまちづくりの実現

6. 防災

帰宅困難者対策や耐震化等ハード・ソフト両面での防災力
の強化

■優先的に取り組むプロジェクト

Project 1 交通拠点リニューアルプロジェクト

駅前周辺の交通基盤の再編や駅機能の強化等、交通結節機能の充実を図るとともに、これからの働き方、暮らし方を先導し、市内各拠点に波及させるまちづくりを行います。



Project 4 多目的文化芸術拠点整備プロジェクト

文化・芸術・コンベンション機能等を含む多目的文化芸術施設を整備します。その実現にあたり、西口における文化施設の集積、東口の賑わいの創出の観点から、適切な機能配置を図ります。



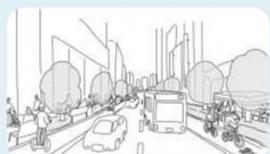
Project 2 公園等リノベーションプロジェクト

賑わいの創出等に向けて、川口西公園や並木元町公園等において試験的な取り組みを行います。



Project 3 六間通り線機能・魅力向上プロジェクト

駅間を繋ぐ六間通り線の乗り継ぎ環境を改善するとともに、快適で魅力的な沿道空間を創出します。



Project 5 まちなか再生プロジェクト

再開発等の推進によりウォーカブルなまちづくりを進め、まちなかの機能と賑わいの再生を図ります。

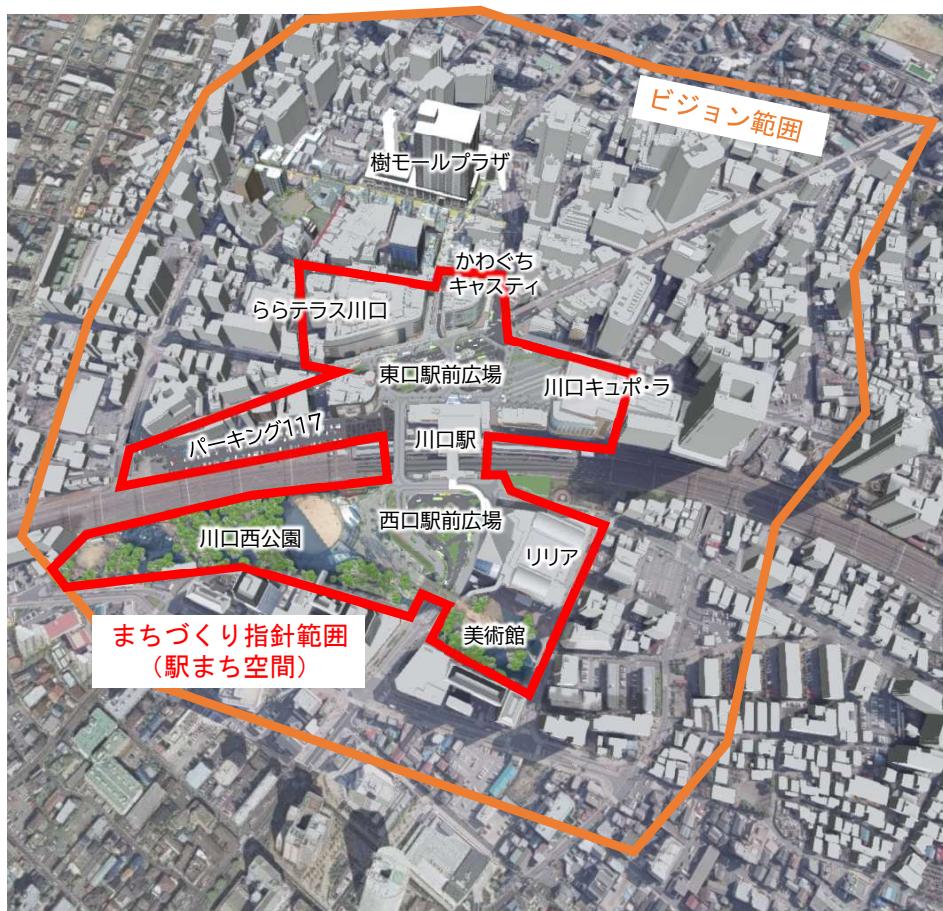


1 まちづくり指針の目的と位置づけ

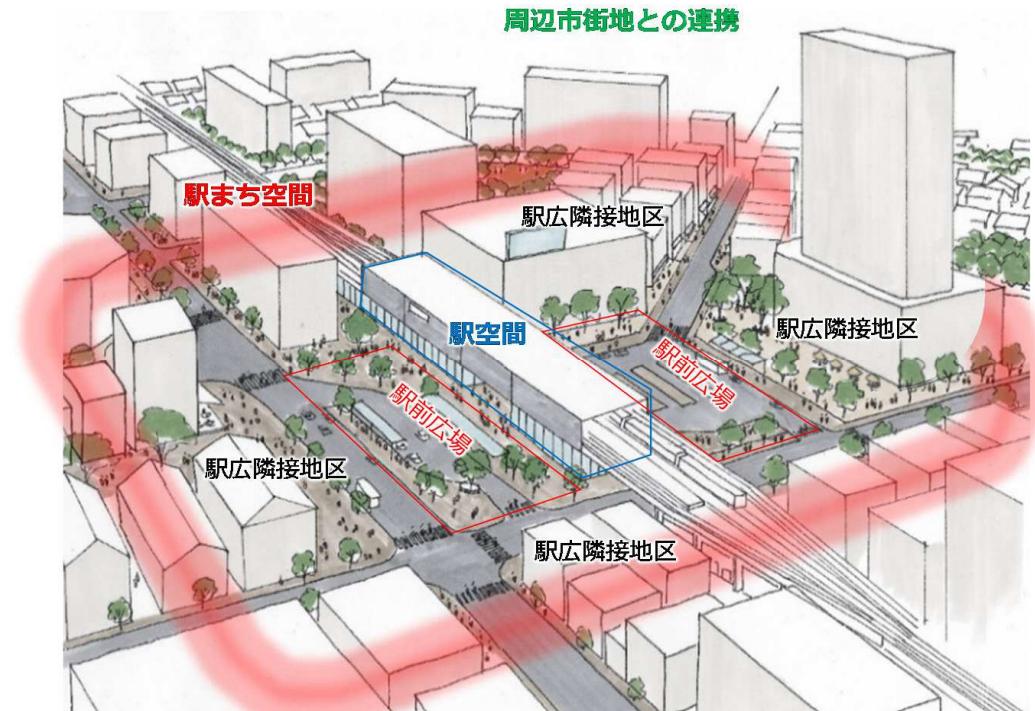
1-4 対象範囲

「ビジョン」では、川口駅周囲の環状道路から約50mの範囲（約50ha）を対象範囲の基本としております。一方、本指針では、駅や駅前広場と一体的に、周辺市街地との関係も踏まえ、必要な機能の配置を検討することが期待される空間（駅まち空間）として、駅前広場を中心としたその隣接街区等を基本とし、その他該当範囲に関連する公共施設等も含め、対象範囲と定めました。

■ビジョンおよび指針の対象範囲



■駅まち空間のイメージ



出典：国土交通省 駅まちデザインの手引き

CHAPTER 2

川口駅周辺の現状・課題と将来の変化

2 川口駅周辺の現状・課題と将来の変化

2-1 川口駅周辺のまちづくりの動向

01 川口駅周辺の変遷

昭和40年代

- ・川口駅東口の目の前を産業道路が通過しており、これにより川口駅と街が分断されていました。
- ・これを解消するために、産業道路と駅前広場を横断する地下商店街が整備されました。



昭和50年代

- ・西口の公害資源研究所がつくば市に移転になったことを機に、「川口駅周辺市街地整備構想」を策定しました。

昭和60年代～平成初期

- ・この構想に基づき、川口駅の西口（リリア、西公園、リプレ、駅前広場等）が整備され、東口では再開発が進み、産業道路と線路敷を渡る歩行者デッキが整備されました。
- ・歩行者デッキが整備されたため、地下商店街は廃止され、駐輪場へと姿を変えました。

2 川口駅周辺の現状・課題と将来の変化

2-1 川口駅周辺のまちづくりの動向

02 川口駅周辺の開発状況

1979～1980年にかけて、川口駅西口の公害資源研究所の移転を機に、1983年に「川口駅周辺市街地整備構想」を策定し、都市基盤や公共施設が整備されました。さらに、近年では、首都東京に隣接し、交通利便性の高さから商業・業務機能の集積が進むなど、川口駅周辺は大きく様変わりしました。

2025年の「ららテラス川口」のリニューアルオープンや2026年の川口市立美術館開館など駅周辺における集客施設の整備が現在も進められている一方で、一部の公共施設では社会情勢等の変化に合わせた機能の更新等が求められています。



2 川口駅周辺の現状・課題と将来の変化

2-1 川口駅周辺のまちづくりの動向

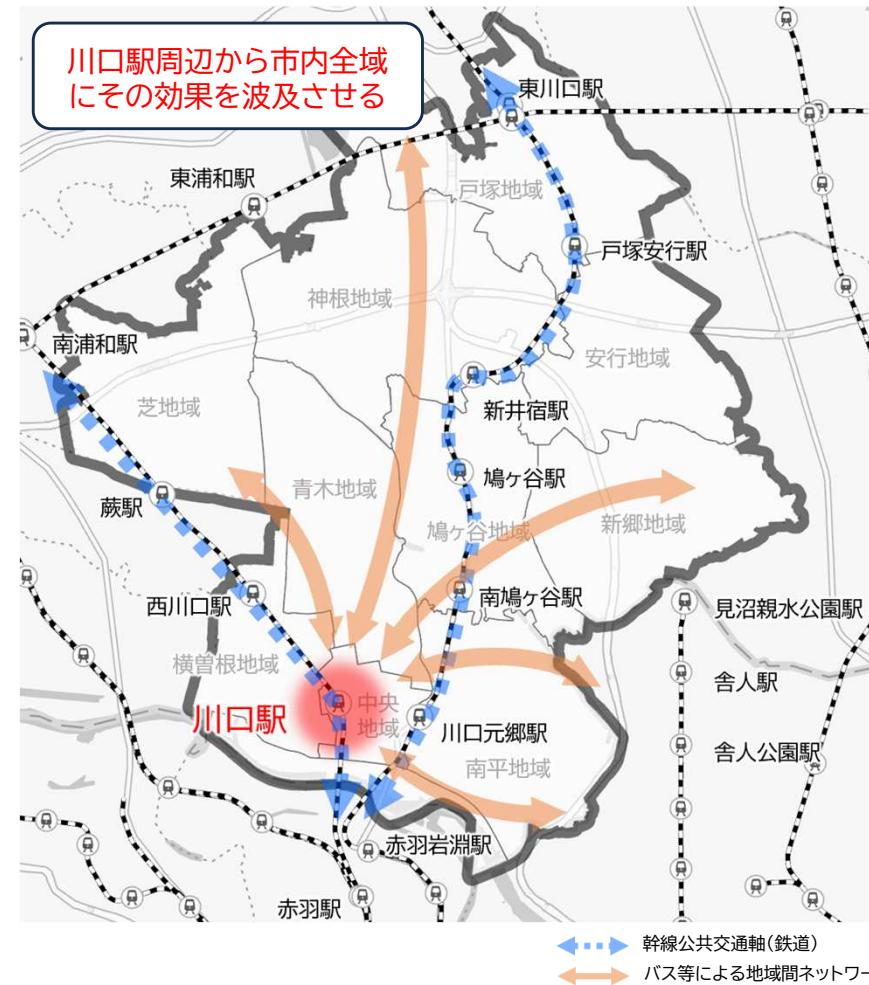
03 上野東京ライン停車後の川口駅の位置付けと目指す方向性

上野東京ラインの川口駅への停車と共に合わせた川口駅周辺の再整備は、本市のまちづくりにおける大きな変革期であり、未来への投資として、その効果の最大化が求められます。広域的な視点では、首都圏の都市間競争の中で、「さらなる選ばれるまち」として本市の地位を引き上げることを目指します。一方で市内最大の都市機能の集積地であるという川口市内における川口駅の役割に目を向けると、川口駅周辺の再整備の効果を市内全域に波及することが求められます。具体的には、バスなどの二次交通等を通じて市内居住者の利便性向上を図ることや、川口駅周辺における働き盛り世代の増加や開発の促進により、税収を確保し、市全体の公共サービスに還元を図ることを目指します。

■ 川口駅の広域的な位置付け



■ 川口駅の市内における役割



2 川口駅周辺の現状・課題と将来の変化

2-2 川口駅周辺の現状と課題

01 まちの特徴

川口駅周辺に存在する人や施設等、外から見える情報を基に、川口駅周辺エリアの特徴を整理しました。

通勤・通学目的の駅利用者が多い

- ・川口駅は埼玉県内でも乗降者数が上位と、多くの方が利用しますが、駅利用者の多くが通勤・通学を目的として利用しています。



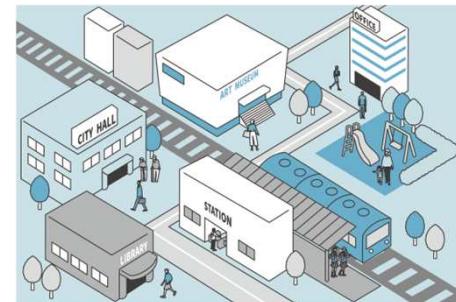
多くの人が市外へ通勤・通学

- ・川口駅周辺の居住者は、本市以外の市区町村へ通勤・通学される方が多い状況です（埼玉県内ではさいたま市、埼玉県外では東京方面への移動が多い状況）。



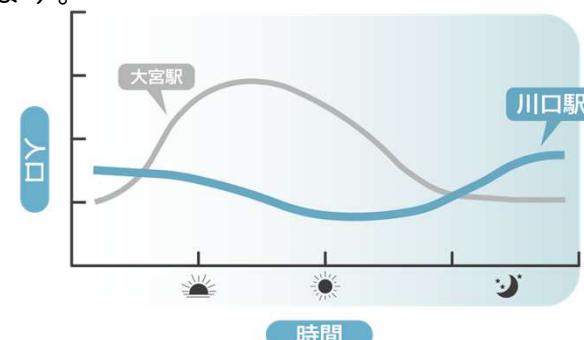
公共公益施設が充実

- ・駅の東口側には「駅前行政センター」や「川口市立図書館」などがあり、西口側には大規模公園や文化センターに加えて「川口市立美術館」が開館予定であるなど、多彩な公共公益施設がそろっています。



他の拠点駅周辺に比べると昼間の滞在者が少ない

- ・近隣の拠点駅周辺のエリアと比べ、昼間の滞留人口が少ない状況であり、ベッドタウンとしての特徴が表れています。



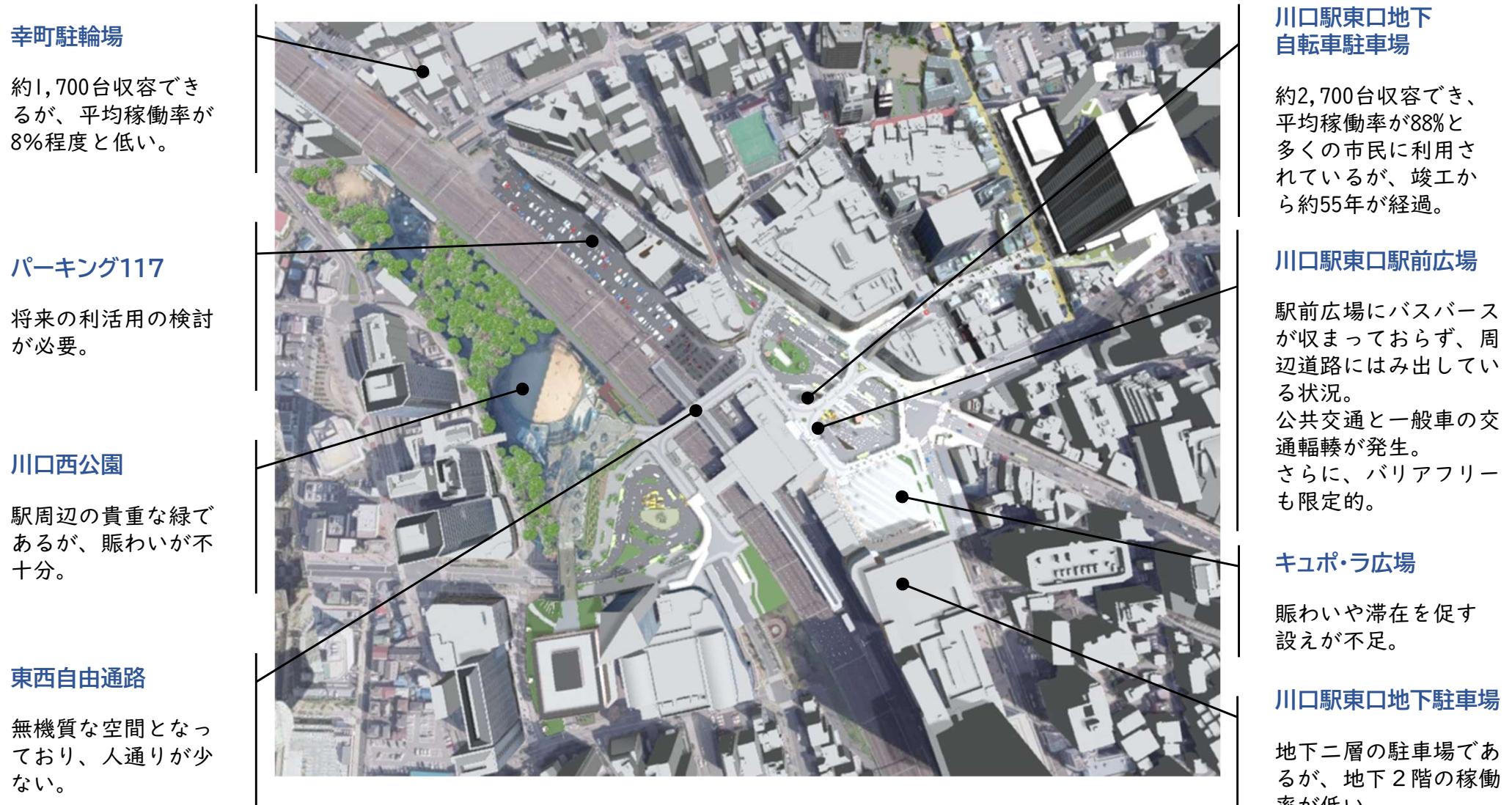
出典：「地域経済分析システムRESAS－産業構造分析」（経済産業省）

2 川口駅周辺の現状・課題

2-2 川口駅周辺の現状と課題

02 公共施設の利活用状況

川口駅周辺に点在する駐車場や公共空間等について、利活用の面から課題を整理しました。



2 川口駅周辺の現状・課題と将来の変化

2-2 川口駅周辺の現状と課題

03 現状・課題のまとめ

洗い出した川口駅周辺の現状や課題を基にSWOT分析を行い、川口駅周辺の強みと弱み、将来の変化を整理しました。

※SWOT分析とは？

向かうべき方向性を整理するために、特定の対象に対し内部環境と外部環境のプラス要因・マイナス要因を洗い出す現状分析手法です。

川口駅周辺の現状と課題	
内部環境(現状)	プラス要因
	マイナス要因
外部環境(将来の変化)	<p>S:強み(Strength)</p> <p>交通空間</p> <ul style="list-style-type: none">・都心への高いアクセス性(鉄道)・市内地域間ネットワークの充実(バス等)・施設間をつなぐデッキネットワーク <p>環境空間</p> <ul style="list-style-type: none">・東口における商業、業務施設の集積・西口における文化、公共施設の集積(緑やアート)・広場や公園など、大規模なオープンスペースがある
	<p>W:弱み(Weakness)</p> <p>交通空間</p> <ul style="list-style-type: none">・乗降者数が多いがJR京浜東北線のみの單一路線・歩きたくなる空間、バリアフリー経路が限定的・バス停が分散している <p>環境空間</p> <ul style="list-style-type: none">・ブランドイメージが確立していない・目的地としての機能、滞在したくなる空間が乏しい・施設・空間(キュポ・ラ広場等)が有効活用されていない・行政と民間でさらなる連携が必要
外部環境(将来の変化)	<p>O:機会(Opportunity)</p> <p>川口駅周辺</p> <ul style="list-style-type: none">・上野東京ラインの停車・都心回帰傾向の高まり <p>全国的</p> <ul style="list-style-type: none">・情報通信技術の進展・民間企業による投資の活発化
	<p>T:脅威(Threat)</p> <p>川口駅周辺</p> <ul style="list-style-type: none">・各施設の耐用年数の訪れ・周辺都市との競合 <p>全国的</p> <ul style="list-style-type: none">・災害の頻発化、激甚化・将来的な高齢化・人口減少・資材や物価の高騰

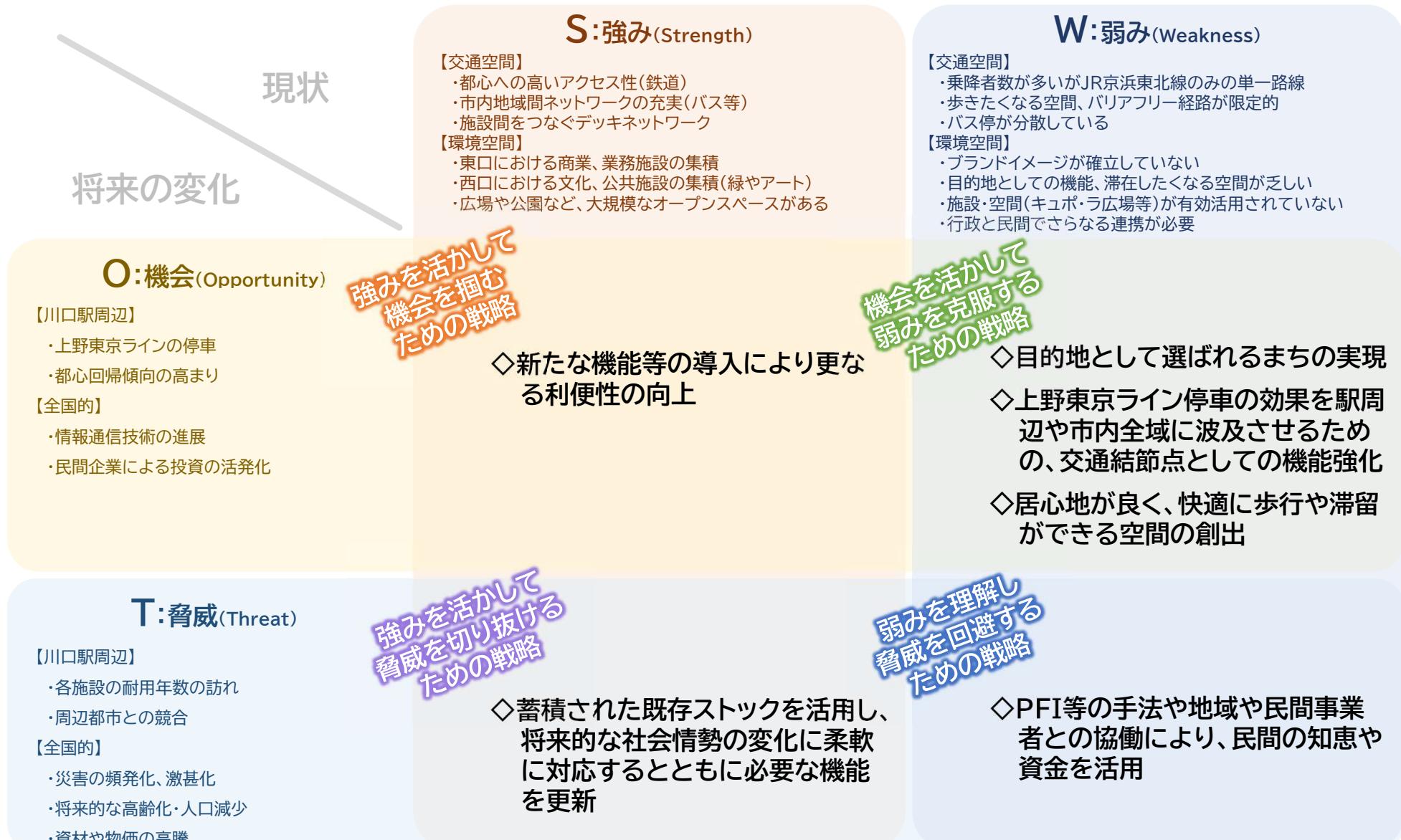
CHAPTER 3

基本的な考え方

3 基本的な考え方

3-1 現状・課題と将来の変化を踏まえたまちづくりのポイント

川口駅周辺の強みや弱み、昨今から将来にかけての社会情勢の変化を踏まえ、今後のまちづくりにおいて考慮すべきポイントを整理しました。



3 基本的な考え方

3-2 まちづくりを進める上での市の理念

川口駅周辺のまちづくりを進める上での本市の理念を以下のように整理しました。

これまでのまちづくりの蓄積を最大限活用するとともに公民共創の取組の促進により、財政負担の軽減に配慮しつつ、「川口ならでは」のまちづくりを川口駅周辺で推進することにより、活力・賑わいを牽引し、市内全域にその効果を波及させる

ポイント1 上野東京ライン停車の効果を最大化

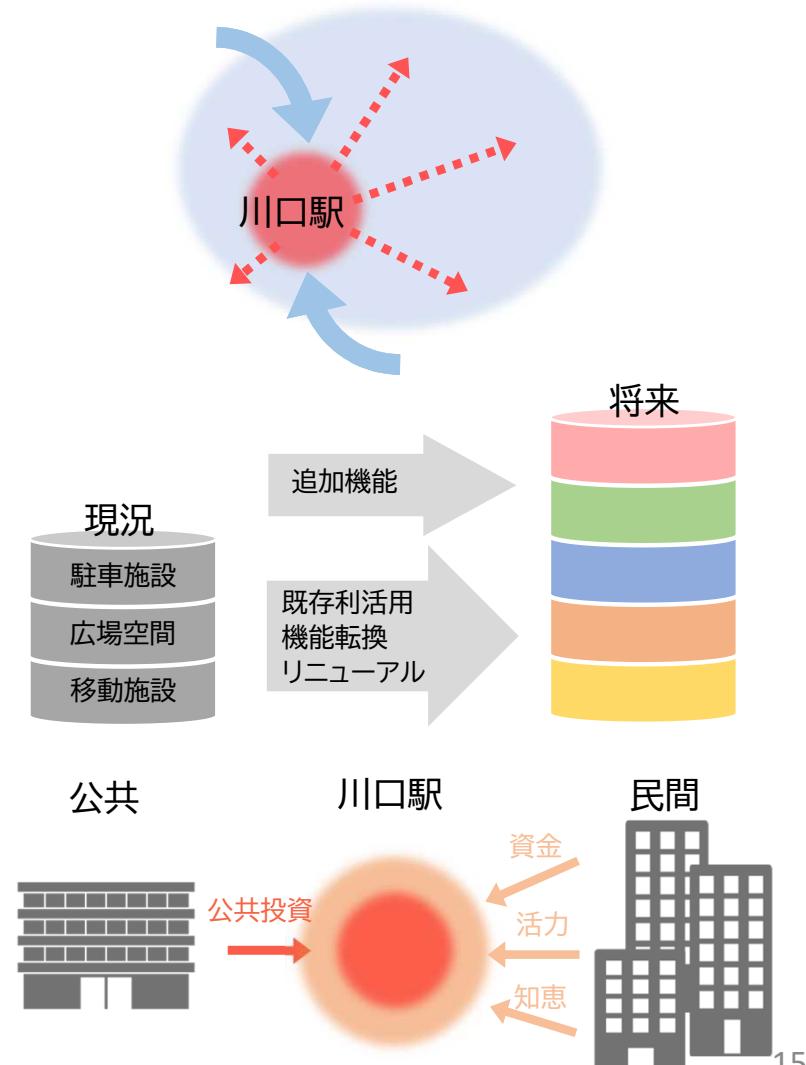
- 首都圏の都市間競争の中で本市の地位を引き上げる大きな契機であり、東京のベッドタウンとしての強みを磨いていくことに加え、通過点でない「目的地」としての機能を強化していく必要があります。
- 交通結節拠点としての機能を強化すること等により、上野東京ライン停車の効果を市内全域に波及させ、川口駅周辺だけでなく、市内全域に活力・賑わいを広げる必要があります。

ポイント2 既存ストックの最大限の活用と必要に応じた更新

- デッキネットワークや公共施設等のこれまでのまちづくりの蓄積（既存ストック）を最大限活用することによる、地域のアイデンティティの継承とコストの縮減を図っていくことが求められます。
- 既存ストックの老朽化状況や利用状況等に係る現状の課題や、人口構造の変化や気候変動によるライフスタイルの変化、技術の進展等の将来的な社会情勢の変化を踏まえ、必要に応じた施設の更新や低未利用空間の活用の推進が求められます。

ポイント3 公民共創のまちづくりの実現

- PFI等の手法により、民間の知恵や資金を活用した公共施設の整備が有効です。
- 駅や美術館等の拠点施設への公共投資を呼び水とした駅周辺への民間投資の呼び込みが期待されます。
- 地域や民間事業者との協働による公共空間の活用やまちづくり活動の推進が求められます。



3 基本的な考え方

3-3 川口駅周辺で進めていくまちづくりの全体像

前述の市の理念やまちづくりのポイントを踏まえ、川口駅周辺エリアを「住み続けたいまち」「さらなる選ばれるまち」としていくため、「あつまる」「つくる」「そだてる」の3つを戦略としたまちづくりを進めていきます。

あつまる

拠点力の強化

～交通結節機能・防災機能・都市機能の強化～

- ①上野東京ライン停車に伴う広域アクセス性の向上を活かした交通結節点としての機能強化
- ②居住機能・居住者向けの生活支援機能に加え、新たな業務・交流機能等の導入・誘致

つくる

魅力的な空間づくり
～ウォーカブルな空間づくり～

- ①駅前を起点とした、歩きたくなる回遊性の高い歩行環境の整備
- ②オープンスペース等の空間の有効活用により、過ごしたくなる滞留・交流の場を形成

そだてる

ブランド力の確立

～「川口ならでは」の魅力の可視化と発信～

- ①文化芸術や緑等の地域資源を活かした他都市との差異化
- ②戦略的な情報発信とプロモーション
- ③川口ブランドの確立にあたっての民間投資の誘発



3 基本的な考え方

3-4 本指針の全体像

前述までの整理を踏まえ、本指針ではビジョンの実現に向け、川口駅周辺において進めていくべきエリアごとの取組及び各取組を進めていく上での検討事項や留意点等をとりまとめます。

川口駅周辺
まちづくり
ビジョン

「住みやすいまち」を超えて、働き、憩い、文化・芸術に親しめるまちとして発展することで、「住み続けたいまち」・「さらなる選ばれるまち」へ

ビジョンの実現に向け、川口駅周辺で取り組むべき事項を整理

川口駅周辺の現状・課題と将来の変化

S : 強み

都心へのアクセス性
商業・業務施設、文化・公共施設の集積

W : 弱み

ブランドイメージが確立していない
行政と民間でさらなる連携が必要

O : 機会

上野東京ラインの停車
都心回帰傾向の高まり

T : 脅威

各施設の耐用年数の訪れ
資材や物価の高騰
周辺都市との競合

まちづくりを進める上での市の理念

◆これまでのまちづくりの蓄積を最大限活用するとともに公民共創の取組の促進により、財政負担の軽減に配慮しつつ、「川口ならでは」のまちづくりを川口駅周辺で推進することにより、活力・賑わいを牽引し、市内全域にその効果を波及させる

上野東京ライン停車の
効果を最大化

既存ストックの最大限の活用
と必要に応じた更新

公民共創のまちづくりの実現

川口駅周辺
まちづくり
指針

「住み続けたいまち」「さらなる選ばれるまち」実現に向けた戦略

あつまる

拠点力の強化

～交通結節機能・防災機能・都市機能の強化～

つくる

魅力的な空間づくり

～ウォーカブルな空間づくり～

そだてる

ブランド力の確立

～「川口ならでは」の魅力の可視化と発信～

「公民共有のガイドライン」として機能

エリアごとの主な取組等

取組1

自由通路を含む川口駅及び
ペデストリアンデッキの再整備

取組2

駅前広場の再整備

取組3

川口西公園リノベーション

取組4

周辺市街地における
機能配置

取組を進める上で考慮すべき視点

①エリアマネジメント体制の構築

②柔軟性の確保

③デジタル・先進技術の活用

CHAPTER 4

エリアごとの主な取組等

4 エリアごとの主な取組等

4-1 エリアごとの主な取組等の全体像

川口駅周辺において進めていくまちづくりに必要となる取組を、駅周辺を4つのエリアに分け、それぞれのエリアごとに整理しました。



4 エリアごとの主な取組等

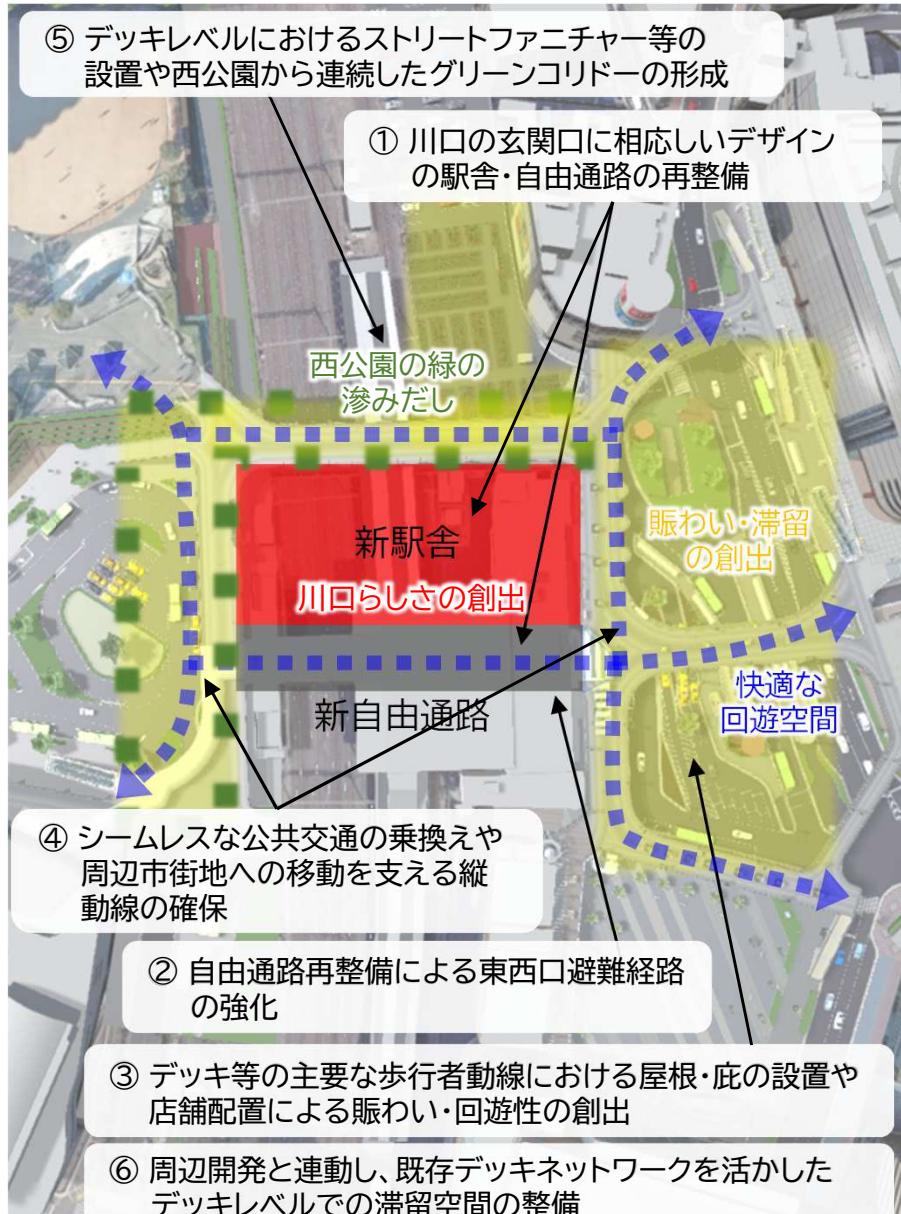
4-2 エリアごとの具体的な取組内容

取組1　自由通路を含む川口駅及びペデストリアンデッキの再整備	取組を進める上で考慮すべき視点
①川口の玄関口に相応しいデザインの駅舎・自由通路の再整備	
②自由通路再整備による東西口避難経路の強化	
③デッキ等の主要な歩行者動線における屋根・庇の設置や店舗配置による賑わい・回遊性の創出	
④シームレスな公共交通の乗換えや周辺市街地への移動を支える縦動線の確保	
⑤デッキレベルにおけるストリートファニチャー等の設置や西公園から連続したグリーンコリドーの形成	
⑥周辺開発と連動し、既存デッキネットワークを活かしたデッキレベルでの滞留空間の整備	
取組2　駅前広場の再整備	
①既存空間を有効に活用した、各交通モードの空間を適切に配置した駅前広場の整備	
②シェアサイクル等多様なモビリティ向けの施設や、駐輪場、駐車場の適正な配置	
③ユニバーサルデザインに配慮したサイン計画（案内看板等）の導入	
④MaaSの導入などスマートシティの推進	
取組3　川口西公園リノベーション	
①鉄道用地拡張に伴う公園施設の一部除却に合わせた公園の再整備方針の策定	
②公園内の広場等におけるカフェや働く場等、さまざまな活動を誘発する場の整備	
③Park-PFI等の民間活力を活かした川口西公園の改修、維持管理及び運営の実施	
取組4　周辺市街地における機能配置	
①駅周辺の賑わい創出や、多様な暮らし、働き方を支援するための機能の導入	
②災害対応力の強化	
③駅と周辺市街地とを繋ぐ新たなデッキネットワークおよび縦動線の整備	
④賑わいを創出するオープンスペースの整備・活用	
⑤再開発事業等の民間開発に伴う良質な住宅の誘導とインフラの確保	
⑥パーキング117の利活用の検討	

4 エリアごとの主な取組等

取組1 自由通路を含む川口駅及びペデストリアンデッキの再整備

「住み、働き、憩い、文化・芸術に親しめるまちの玄関口として相応しい、
緑やアートあふれる魅力的で機能的な駅空間」



具体的な取組内容

①: 川口の玄関口に相応しいデザインの駅舎・自由通路の再整備 あつまる

上野東京ライン停車に伴い建替えを行うこととなる駅舎や、今回新しく整備する自由通路について、川口駅独自のコンセプト・デザインとなるよう検討を進めます。

今後の検討事項

- 駅舎・自由通路デザインのコンセプトの検討 等

②: 自由通路再整備による東西口避難経路の強化 あつまる

24時間東西口の横断が可能な自由通路を再整備することにより、緊急時の避難経路を強化します。

今後の検討事項

- 市内あるいは駅周辺の防災指針の検討 等



4 エリアごとの主な取組等

③: デッキ等の主要な歩行者動線における屋根・庇の設置や店舗配置による賑わい・回遊性の創出 あつまる つくる

デッキ等の主要な歩行者動線に日差しや雨等を凌げる屋根・庇を設置し、回遊性の向上や滞留空間の高質化を図るとともに、店舗を配置することにより、賑わいのある空間づくりを図ります。

■デッキ上店舗による賑わい空間の例 ■天候に左右されない快適な歩行者動線の例



出典:柏アーバンデザインセンター(UDC2)



出典:川越市HP

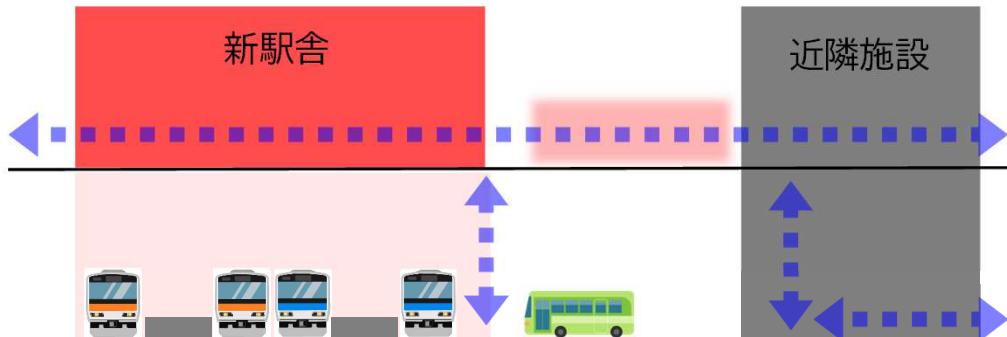
今後の検討事項

- ・主要な歩行者動線の調査・選定
- ・既存デッキへの屋根・庇設置にかかる技術的検証
- ・設置する店舗の位置の検討および需要調査
- ・店舗配置等に係るスキームの検討 等

④: シームレスな公共交通の乗換えや周辺市街地への移動を支える縦動線の確保 つくる そだてる

駅 ⇄ 駅前広場、駅 ⇄ 周辺市街地の上下移動を円滑にするための経路を確保します。

■近隣施設も含めた東口広場の歩行者動線イメージ



今後の検討事項

- ・縦動線の必要箇所の検討
- ・EV・ESC設置の必要性にかかる検討 等

⑤: デッキレベルにおけるストリートファニチャー等の設置や西公園から連続したグリーンコリドーの形成 あつまる

西公園からの連続した緑化空間を形成し、回遊の合間に気軽に休憩できるストリートファニチャーを設置することで、歩行者空間の高質化を図ります。

■グリーンコリドーのイメージ



※このイメージは市が作成したものであり、関係者と調整したものではありません

今後の検討事項

- ・デッキ上に設置可能な施設・設備の確認
- ・ストリートファニチャー等の設置位置の検討
- ・グリーンコリドー形成にかかるデザイン計画 等

⑥: 周辺開発と連動し、既存デッキネットワークを活かしたデッキレベルでの滞留空間の整備 あつまる つくる そだてる

既存デッキにおける回遊状況に加え、将来的な周辺開発の動向を見据えたオープンスペースを配置することにより、質の高い歩行環境の構築を図ります。

■デッキレベルでの賑わい創出事例



出典:駅まち再構築事例集

■デッキレベルでの滞留空間の整備事例



出典:藤沢市HP

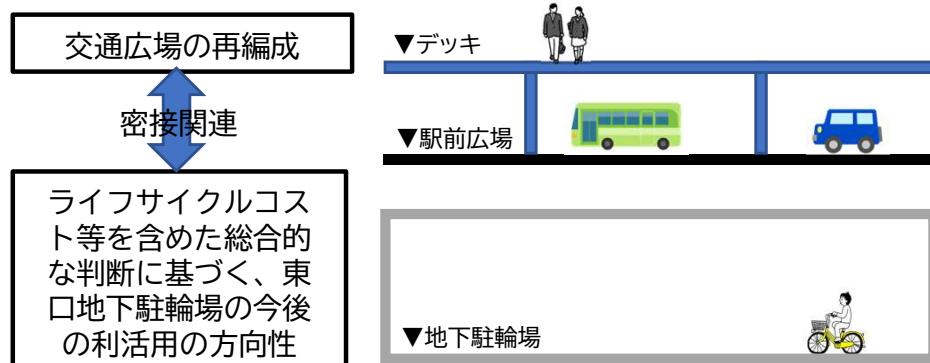
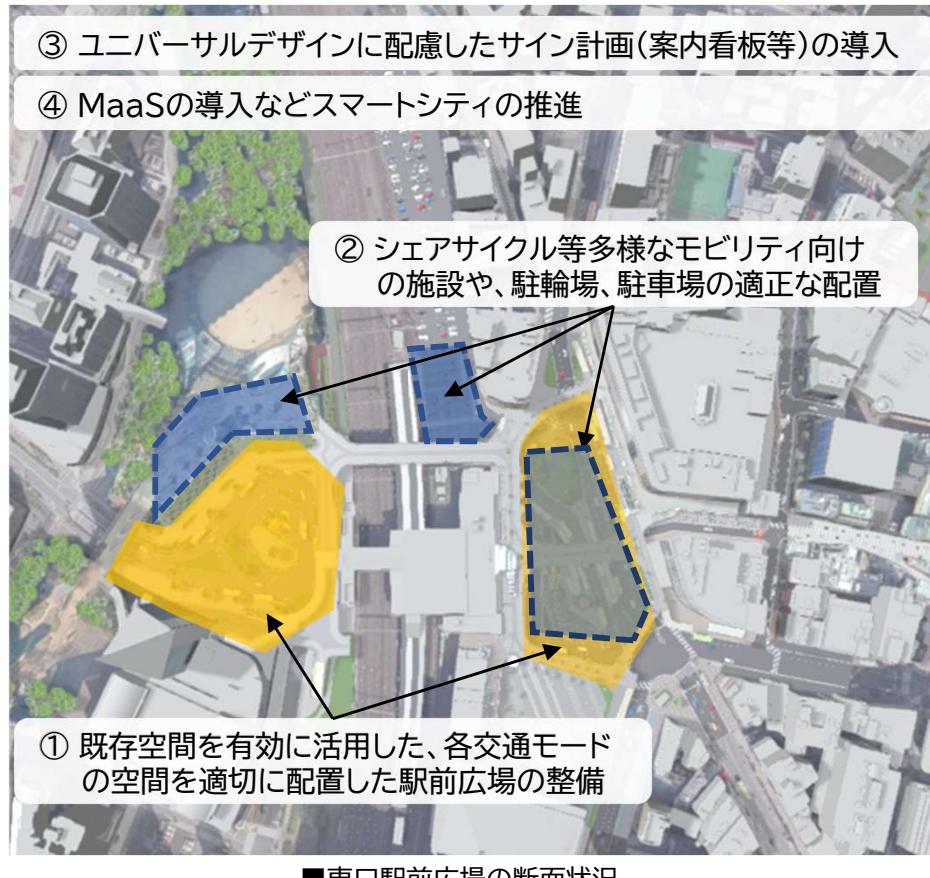
今後の検討事項

- ・デッキレベルにおける滞留空間の必要性、整備位置にかかる検討
- ・既存デッキの耐用年数に係る調査
- ・既存デッキへの接続計画の具体化 等

4 エリアごとの主な取組等

取組2 駅前広場の再整備

「上野東京ライン停車の効果を川口市全域に波及させるための、多様な交通モードのハブとなる駅前広場」

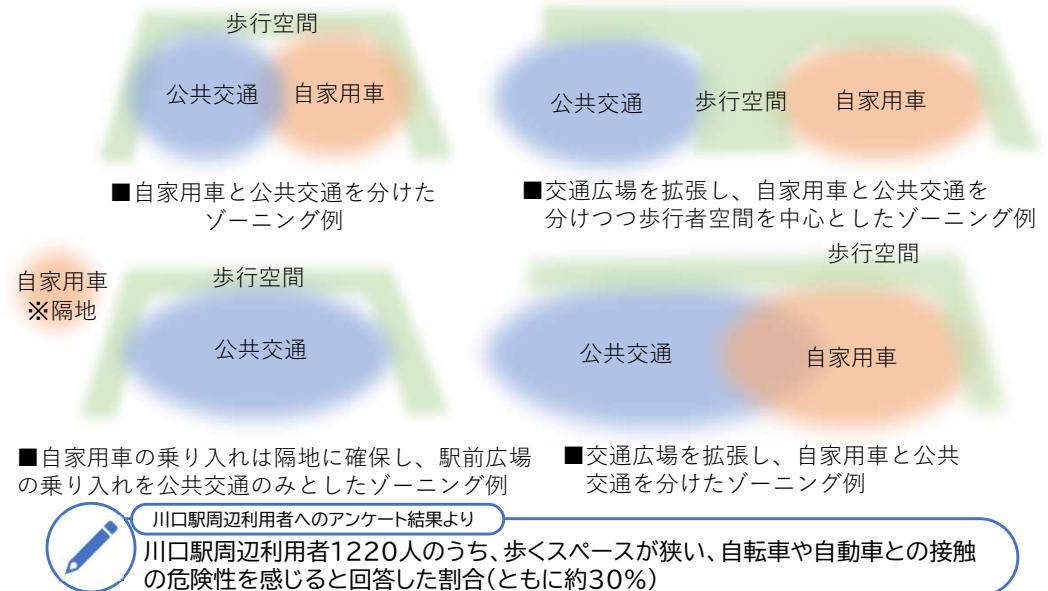


具体的な取組内容

①:既存空間を有効に活用した、各交通モードの空間を適切に配置した駅前広場の整備 あつまる

自家用車やバス、タクシー等、各交通機関の乗降場の適切な配置、ゆとりある歩行者空間を創出し、交通幅較のない交通広場の編成を図ります。

■各交通モードのゾーニング例



今後の検討事項

- ・交通量調査
- ・駅前広場へのバス停の集約化にかかる検討
- ・既存空間・施設（換気塔や駐輪場出入口等）の必要性の確認
- ・駅前広場のレイアウト検討
(拡張の必要性含む)

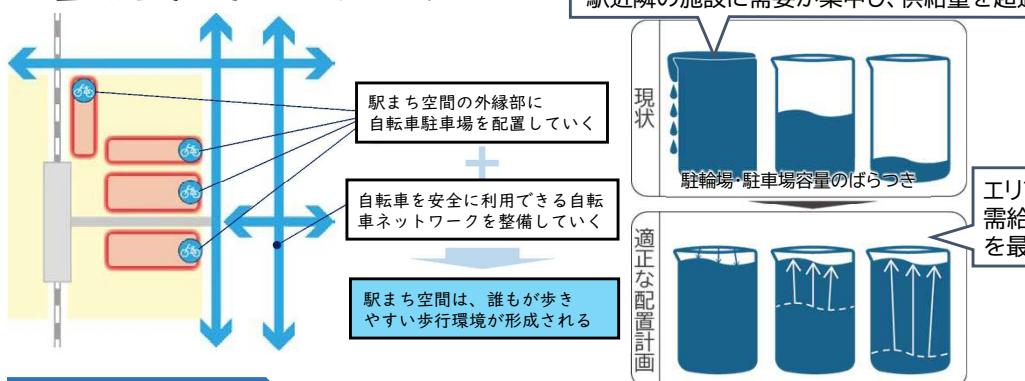
※留意事項

- ・レイアウト検討において、自家用車と公共交通の分離、歩行者空間の確保等に留意する。
- ・公共交通の再編がある場合は、駅前広場の整備との整合性に留意する。

4 エリアごとの主な取組等

②:シェアサイクル等多様なモビリティ向けの施設や、**あつまる** 駐輪場、駐車場の適正な配置

人口増減や交通手段のニーズ、上野東京ライン停車に伴う駐輪場・駐車場施設の減少、既存施設の状況調査等を踏まえた、駅周辺における駐輪場・駐車場の量と配置等の適正化を図ります。



今後の検討事項

- 民間の駐輪場・駐車場を含めた適正台数の検討および誘導施策の検討
- 東口地下駐輪場の将来的な利活用方針に係る検討

※留意事項

- 川口元郷駅との関係性等、広域的な構想等との整合性に留意する。

③:ユニバーサルデザインに配慮した サイン計画(案内看板等)の導入 **あつまる つくる**

各交通機関の乗り場や各施設、イベント会場等への分かりやすいサイン計画の導入を図ります。

■デジタルサイネージによる案内等の例(左:宇都宮駅、右:金沢駅)



出典:宇都宮市HP



出典:石川県屋外広告業協同組合

今後の検討事項

- サイン計画を検討するための体制の構築
- 統一的なサイン計画の検討 等

④ :MaaSの導入などスマートシティの推進 **あつまる**

AI（人工知能）や情報通信技術等の活用による、交通機関の乗り継ぎの円滑化により、シームレスな交通サービスの実現を図ります。

■一定のエリアを対象とした移動検索等のサービス・プラットフォームの例

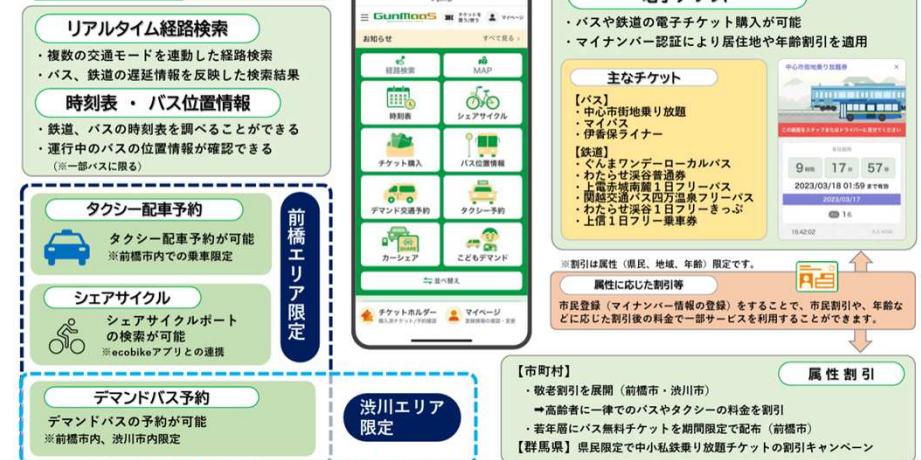
【九州MaaS】



出典:国土交通省 令和5年度 日本版MaaS推進・支援事業

【GunMaaS】

GunMaaSの主なサービス



出典:国土交通省 スマートシティ官民連携プラットフォーム令和6年度オンラインセミナー

今後の検討事項

- 推進にかかる検討体制の構築 等

4 エリアごとの主な取組等

取組3 川口西公園リノベーション

「希少な駅前の立地特性を活かしつつ、地域住民の憩いと賑わいを両立する公園」

「美術館等と連動した緑やアートが調和したシンボリックな空間形成」



具体的な取組内容

①:鉄道用地拡張に伴う公園施設の一部除却に あつまる そだてる 合わせた公園の再整備方針の策定

上野東京ライン停車に合わせた西公園の将来的な在り方およびコンセプトに沿った再整備方針を検討します。

■神戸市東遊園地



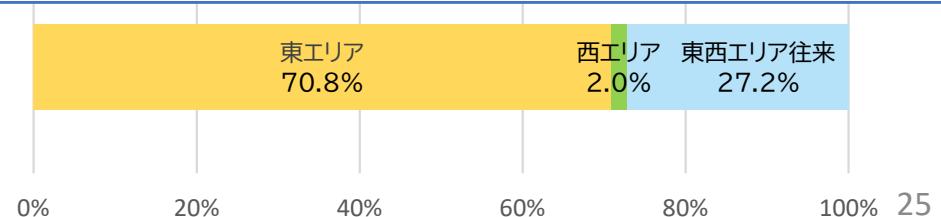
出典:URBAN PICNIC、神戸市HP

今後の検討事項

- ・コンセプトの検討
- ・コンセプトや設置施設に対応した設備の改修検討 等

川口駅周辺利用者のアンケート結果より

休日に川口駅周辺を利用している(川口駅舎のみの利用者を除く)987人のうち、西口エリアは東口エリアに比べて立ち寄りが少なく、往来している人も少ない



4 エリアごとの主な取組等

②:公園内の広場等におけるカフェや働く場等、**あつまるつくる** さまざまな活動を誘発する場の整備

川口駅から美術館までの動線を踏まえ、来訪者のライフスタイルの変化や多様化に対応するため、公園内におけるアクティビティの多様化を図るための機能導入を検討します。

■カフェや活動を誘発する場の例

【びわこ文化公園】



出典:滋賀県営 びわこ文化公園HP

【富岩運河環水公園】



運河を活かして、
Park-PFI制度で
多様な活動が生ま
れる公園

出典:富山県 富岩運河環水公園HP

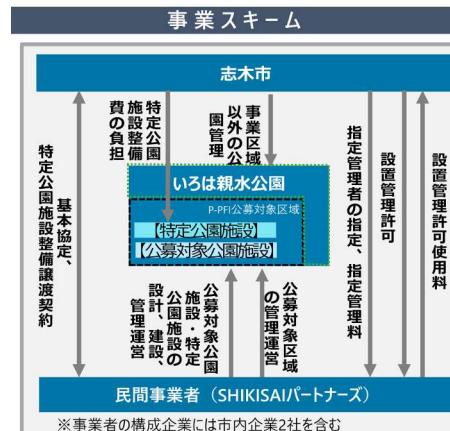
今後の検討事項

- ・カフェ等設置する施設のニーズや市場性のサウンディング 等

③:Park-PFI等の民間活力を活かした 川口西公園の改修、維持管理及び運営の実施

川口西公園の利活用をより一層進めるとともに、持続的に維持管理し、その費用が軽減されるための民間活力の活用について検討します。

■Park-PFIの例(いろは親水公園)

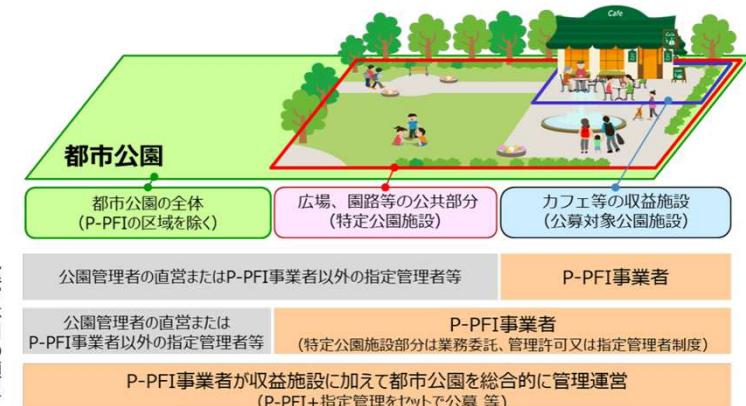


※事業者の構成企業には市内企業2社を含む



出典:国土交通省 P-PFI事例集

■Park-PFIのイメージ



出典:国土交通省HP

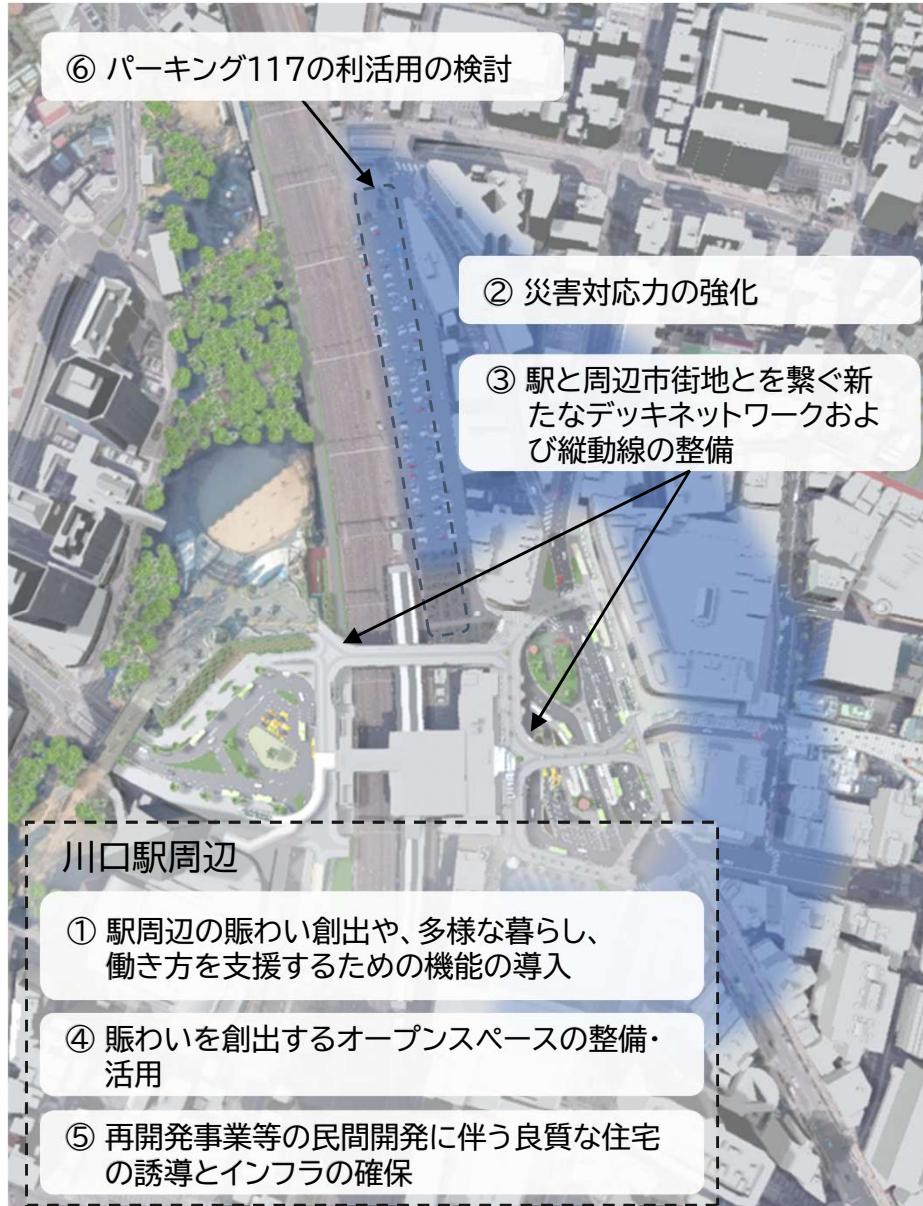
今後の検討事項

- ・Park-PFIの導入可能性に係る調査・検討
- ・将来的な管理形態
(指定管理者制度やPark-PFI制度等)の整理
- ・公募設置等指針の策定 等

4 エリアごとの主な取組等

取組4 周辺市街地における機能配置

「住み続けたくなる良質な住環境の形成と目的地としての機能を含む新たな都市機能の集積」



具体的な取組内容

①: 駅周辺の賑わい創出や、多様な暮らし、働き方を支援するための機能の導入 あつまるそぞろてる

働き方や暮らし方等の社会情勢の変化を踏まえ、駅まち空間に必要な機能等について、低未利用の公有地や周辺市街地の建替え時等において整備を促進します。また、上野東京ライン停車によるエリア価値の向上や通勤圏の拡大を踏まえた駅まち空間への企業誘致を促進するとともに、通勤時間短縮によるワークライフバランスの改善や子育て、介護と両立しやすい環境づくりを目指します。

■想定される導入機能

- ・イベントスペース
- ・子育て支援施設
- ・シェアオフィス
- ・教育施設
- ・ホテル
- ・駐車場・駐輪場
- など

■遊休不動産を活用したワークスペース

遊休不動産を再生したコワーキングスペース

○都市再生推進法人である家守会社「株式会社 ワカヤマヤモリ舎」は、エリア内の様々な既存ストックを活用し、まち全体の魅力向上につなげるため、共同住宅をリノベーションし、コワーキングスペース・バル、ゲストハウス等として整備・運営を担っている。(和歌山市)



コワーキングスペース・バル
「Studio RICO」

■駅に隣接した子育て支援施設(国立駅)



出典:国土交通省HP 出典:国立駅南口 子育ち・子育て応援テラスHP

今後の検討事項

- ・駅周辺に必要な機能や施設の調査・確認
- ・上記の機能や施設を誘致するためのスキームの検討 等

4 エリアごとの主な取組等

②:災害対応力の強化 あつまる

公共施設や周辺市街地と連携を図りながら、災害対応施設や垂直避難場所の確保のほか災害訓練等、駅前拠点としての災害対応力の強化を図ります。

■駅前滞留者対策訓練の例

【新宿駅】



【池袋駅】



出典:東京都防災HP

今後の検討事項

- ・帰宅困難者の想定人数の確認
- ・市内あるいは駅周辺の防災指針の検討 等

※留意事項

- ・「川口駅周辺帰宅困難者対策協議会」における検討内容との整合

③:駅と周辺市街地とを繋ぐ新たなデッキネットワーク つくる

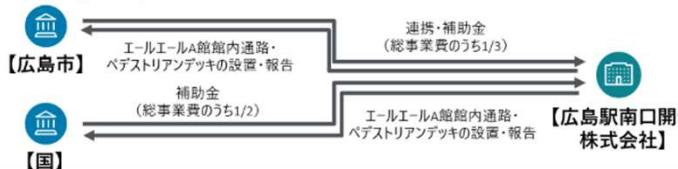
および縦動線の整備

デッキレベルで歩行できるネットワークの拡張、デッキレベルと地上レベルを繋ぐ縦動線の確保を図ります。

■ペデストリアンデッキ整備の事例(広島)

■取組スキーム

- ・広島駅南口開発株式会社が、広島市及び国から直接補助金を受け取り、民間ビル（エールエールA館）内の通路及びペデストリアンデッキの設置を行う。残りの事業費は、広島駅南口開発株式会社が負担する。
- ・広島駅南口開発株式会社は、主に民間ビル（エールエールA館）の管理や専門店街の運営、駐車場の運営等の事業を行っている。



出典:官民連携まちづくりによるウォーカブル空間の形成に関する事例集

今後の検討事項

- ・周辺市街地や商店街へのデッキネットワークのルールやガイドライン等の検討
- ・縦動線の必要箇所の検討
- ・E V・E S C設置の必要性にかかる検討
- ・地上レベルとのネットワークも含めた検討 等

④:賑わいを創出するオープンスペースの整備・活用 つくる

多様な活動を行えるオープンスペースの整備、既存のオープンスペースにおける更なる賑わい形成のための公民を問わないイベントの実施等を推進します。

■民地におけるオープンスペースを整備・活用の事例



出典:国土交通省HP

今後の検討事項

- ・オープンスペースに対するニーズ調査
- ・駅まち空間におけるオープンスペースの整備方針の検討 等

※留意事項

- ・キュボ・ラ広場の今後の活用方針

⑤:再開発事業等の民間開発に伴う良質な住宅の誘導と あつまる インフラの確保

上野東京ライン停車を契機として、期待される再開発事業等の民間開発や人口増加に対応した生活インフラの確保を図ります。

今後の検討事項

- ・想定される民間開発の整理
- ・インフラの容量検証
(新たな雨水貯留施設設置など)
- ・再開発事業等の促進につながる仕組みづくりの検討 等

⑥:パーキング117の利活用の検討 あつまる

駅周辺まちづくりへの貢献や財政への寄与に資する活用方針等の検討を進めます。

今後の検討事項

- ・将来の利活用を見据えた都市計画変更
- ・必要な都市機能や活用スキームに関する検討 等

4 エリアごとの主な取組等

4-3 取組を進める上で考慮すべき視点

①:エリアマネジメント体制の構築

施設や空間個々の取組だけでなく、エリア全体の一体的な魅力向上を図るため、エリア全体を俯瞰しながらまちづくりのマネジメントを進めいく視点が重要となります。

■黄金町エリアマネジメントの例

NPOと協議会の関係図



出典:黄金町エリアマネジメントセンターHP

■五反田エリアマネジメントの例



親水広場・ギャラリー
親水広場におけるイベント



出典:国土交通省HP

川口駅周辺で想定される取組イメージ

- 今後会館予定の美術館とタイアップした「アートのまち」の創出
- キュポ・ラ広場等の公共空間を活用した体験価値の高いイベントの企画・開催など

②:柔軟性の確保

今後、駅周辺においては、複数のプロジェクトが同時に進行することが想定されるため、個々のプロジェクトの検討の深度化や計画内容の変更に合わせて、駅全体の構想や他のプロジェクトについても臨機応変に取組内容を調整する柔軟性を持った視点が重要となります。その他、今後の社会情勢の変化や技術の進展に対しても柔軟性を持ち、社会実験等を通じて市民や利用者の意見を伺いながら、柔軟に対応し見直すことが重要となります。

③:デジタル・先進技術の活用

多様化するニーズや価値観に対応し、川口駅周辺に来訪する様々な方に対し、生活の質や都市活動の効率性等を高めるサービス提供を行うため、市民や利用者の意見を取り入れる仕組みを構築し、川口駅周辺エリアにおける各取組の推進においてデジタル・先進技術を活用する視点が重要となります。

■ビッグデータによる人流の把握



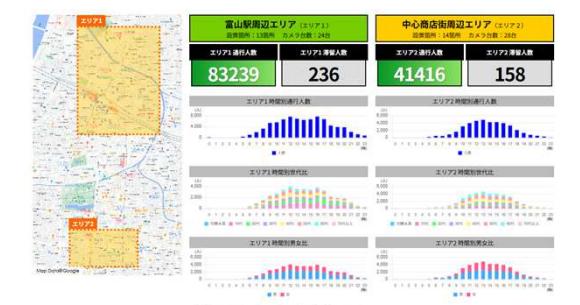
出典:スマート・プランニング実践の手引き【第二版】

■様々な交通サービスを統合したアプリ



出典:先進モビリティサービス(MaaS・AIオンデマンド交通)
の導入に係る事例集

■AIカメラの常設による人流データの計測・可視化(富山市)



出典:富山市AIカメラシステム

CHAPTER 5

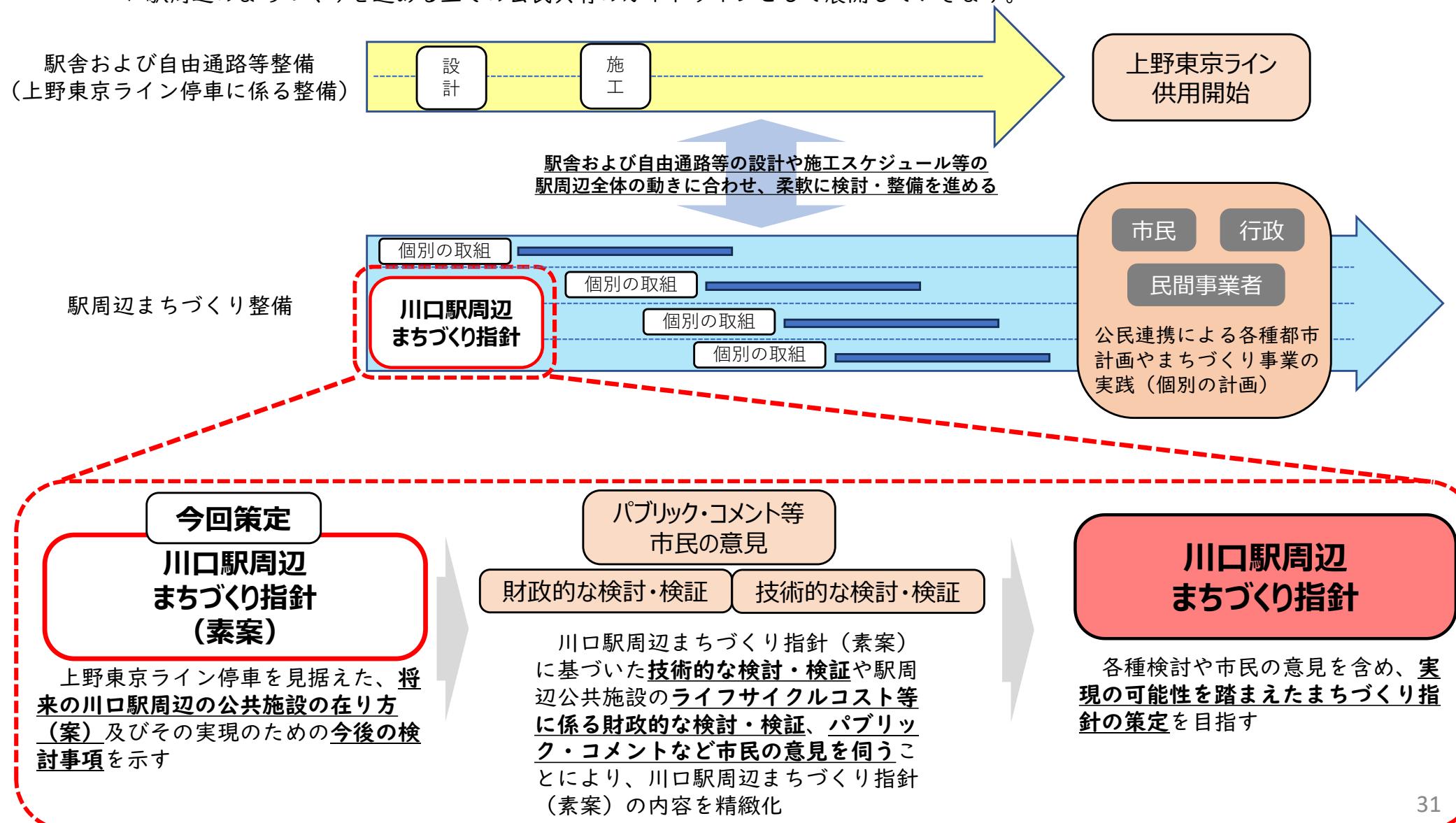
今後の進め方

5 今後の進め方

5-1 今後の進め方

本指針は、ビジョンで示された目指すべき姿や川口駅周辺の現状・課題等を基に、川口駅周辺において推進すべき取組についての素案を整理したものです。

今後は、本素案で示した各取組に対し技術的、財政的な検討・検証等を行い、最終的な実施判断や内容の精査等を踏まえて川口駅周辺のまちづくりを進めるまでの公民共有のガイドラインとして展開していきます。



CHAPTER 6

用語集

6 用語集

6-1 用語集

用語	説明
アクティビティ	人が主体的に行う活動や行動、体験のこと。
ウォーカブル	居心地が良く歩きたくなること。また、街路空間を車中心から"人中心"の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使って人々が集い多様な活動を繰り広げられる場としていくこと。
エリアマネジメント	地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組のこと。
オープンスペース	公共的な屋外空間のこと。公園等の行政用地だけでなく、民間敷地内の広場等も含む概念。
既存ストック	過去に作られ、現在も存在している建築物や資産のこと。
グリーンコリドー	公園や緑地、街路樹などが帯状につながった緑の通り道（緑の回廊）のこと。
サウンディング	事業の発案や検討段階において、民間事業者の意見や事業提案の把握等を行うことで、事業の検討を進展させるための情報収集を目的とした手法のこと。
シームレス	複数の交通手段を接続しやすくすること。
指定管理制度	地方公共団体が設ける公共施設の管理を、民間事業者など指定された団体に委任する制度。
ストリートファニチャー	歩道等に設置してあるベンチ等の家具のこと。
SWOT分析	強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)の4つの要素で分析し、評価する手法のこと。
スマートシティ	先進的技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、各種の課題の解決を図るとともに、快適性や利便性を含めた新たな価値を創出する取組のこと。
二次交通	鉄道駅などの主要な交通拠点から目的地までをつなぐ交通手段のこと。
Park-PFI (P-PFI)	飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」のこと。
ビッグデータ	ICT（情報通信技術）の進展により生成・収集・蓄積等が可能・容易になる多種多量のデータ。この活用により、異変の察知や近未来の予測等を通じ、利用者個々のニーズに即したサービスの提供、業務運営の効率化や新産業の創出等が可能となる。
MaaS	地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのこと。
モビリティ	人やモノの移動手段や、それに関わる技術・サービス全般のこと。
ライフサイクルコスト	製品や建築物などの企画・設計段階から、維持・管理、そして廃棄までの生涯にわたる総コストのこと。
リノベーション	既存の施設に改修を行い、用途や機能を更新して性能を向上させたり、付加価値を与えること。